

安曇野市つながりひろがる協働推進委員会 会議概要

1	会議名	令和7年度 第3回安曇野市つながりひろがる協働推進委員会
2	日時	令和8年3月16日(月) 午前9時30分から午前11時35分
3	会場	安曇野市役所本庁舎 3階 共用会議室 307
4	出席者	磯野会長、細川副会長、百瀬委員、宮澤委員、古越委員、山田委員、小澤委員、 亀井委員、川崎委員、若林委員、蓮井委員 計11名
5	市側出席者	赤沼市民生活部長、地域づくり課まちづくり推進担当金子係長、百瀬主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和8年3月17日

協 議 事 項 等

1 概要

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 報告事項

① 市民活動サポートセンター事業実施状況について

(事務局) 12～2月の事業実施状況について報告。(以下、説明要旨)

- ・市民活動サポートセンター登録団体は202団体(2月末時点)。前回から新規1団体増。
- ・通常年6回発行のセンター通信は、新センター特集の編集調整により本年度は5回で終了。
- ・SNS、ホームページでの情報発信について、区分けと件数を示した。
- ・チラシづくりの体験型講座(2回連続講座)を実施。満足度が高かった。
- ・ゆるつなには、継続的に新規参加者がある。特に移住者の参加が増加し、地域交流や新たな活動を求める声が多い。

(委員)

- ・相談支援の分類にある「市民活動サポートセンターに関する相談」の内容な何か。

(事務局)

- ・主な内容はサポートセンターの機能に関する問い合わせ。特に多いのはチラシの設置場所や情報発信のサポート内容など。

(委員)

- ・区に関する相談は何件あるか。

(事務局)

- ・区に関する相談は概ね130件程度あった。

(委員)

- ・相談支援について、相談が解決して終了するものが多いのか、継続対応している案件があるのか、傾向を知りたい。

(事務局)

- ・相談完了している案件が多い。継続案件の例として、連携先の適切なマッチングが難しく継続中のケースがある。

(委員)

- ・あづみ野エフエムへの出演について、市職員も出演すれば人となりがわかることで市民との距離が縮まるのではないか。
- ・「ゆるつな」は重要な取組み。移住者はスキルや経験を持つ人が多い。団体等とのマッチング

や連携ができることを期待する。

(事務局)

- ・エフエムは、以前は職員出演が中心になっていた時期がある。目的は市民同士のつながりづくりであり、基本は市民出演を重視している。必要に応じて市職員も出演している。

(委員)

- ・エフエムの出演者の声掛け先が限られている。区長を通じて、自治会活動に係る住民にも出演を呼び掛けてはどうか。

② 令和7年度協働事業事例集の発行について

(事務局) 毎年度作成する事例集について、令和7年度版を当日資料として配布（以下、説明要旨）

- ・協働事業の周知、啓発、新たな協働事業の創出を目的に発行。

(委員)

- ・団体とつながりやすくするため、掲載団体の代表者の連絡先などを掲載する予定はあるか。

(事務局)

- ・掲載の予定はない。希望する場合は、市へ相談してもらう形で対応する。

③ 知って、話して、つながる！市民活動発表会&交流会の開催報告について

(事務局) 令和8年3月8日に実施した標記事業の報告（以下、説明要旨）

- ・つながりひろがる地域づくり事業補助金活用団体の成果報告の場であり、併せて市民活動の課題解決のヒントを探る交流会を開催した。
- ・交流会は事前アンケートをもとに6つのテーマ別ワークショップを実施。
- ・参加者の満足度が高かった。同じ課題をもつ団体同士で深い情報交換ができた。

(委員)

- ・参加者は補助金活用団体が主か。

(事務局)

- ・参加者のほとんどは補助金活用団体。一般参加を募れるよう事業名称を変更した。
- ・今後も、周知方法や事業の見せ方の工夫が必要だと受け止めている。

④ ワカモノ Voice について

(事務局) 令和8年3月14日に実施した標記事業の報告（以下、説明要旨）

- ・参加者は高校生1名、大学生2名（1名高校生が体調不良で欠席）だったが、少人数だったからこを深い話が聞けた。
- ・市職員や取材にきた市民タイムス記者も参加し、大人の視点も交えた議論ができた。

(委員)

- ・参加した3名は重要な存在。今回の参加者を大切に、今後のひろがりにつなげるべき。

(委員)

- ・若者参画の取り組みとして良い種が生まれる良い事業。今後の発展を期待する。

(委員)

- ・参加対象を大学卒業後の20代の若者まで広げることを提案したい。外に出てから安曇野に関心をもつ若者の意見はとても重要。

(委員)

- ・過去に社協の事業で、穂高駅前では高校生と交流するイベントを開催した。部活帰りの学生が飛

び入りで参加するなど自然な交流が生まれた。

- ・場所は時間設定を工夫すれば参加しやすくなる可能性がある。

(委員)

- ・明科いいまちつくろう会では明科高校と対話の取り組み事例がある。
- ・高校生の動員ではなく、主体的に参加してもらえよう高校への働きかけの工夫が重要。

(委員)

- ・地元区の夏祭りでは、お盆に帰省した大学生や社会人が手伝ってくれている。地元を離れた若者の視点は貴重。参加対象をひろげる工夫や開催方法の検討が必要。

(委員)

- ・多くの意見が出た。委員の意見を参考に、若者参加の取り組みを今後育てていくことが重要。

⑤ 市民活動サポートセンターオープニングセレモニーの実施について

(事務局) 令和8年4月1日に実施する標記事業について報告(以下、説明要旨)

- ・現在備品の搬入を進めており、開設準備を進めている。委員からの意見や提案をいただきながら、より良いセンターをつくっていききたい。
- ・参加できる委員は出席をお願いする。8時を目安に集合してほしい。

(4) 協議事項

① 令和8年度視察研修視察先について

(事務局) 令和8年度に計画する視察研修視察先の候補地の協議(以下、説明要旨)

- ・事前に委員へ希望先を確認したが、追加提案はない。
- ・視察候補は計画に関連するテーマから選定。
- ・本日は、どのようなテーマを重視するのかの方向性を議論してほしい。

(委員)

- ・市民活動サポートセンターの移設は大きな転機。新しいスタートとしての運営が重要。
- ・センターの職員体制や運営方法が気になる。センターの機能拡充をテーマに学ぶべき。

(委員)

- ・候補地は安曇野市に規模に近い自治体で充実したセンター運営しているところが参考になるのではないか。

(委員)

- ・安曇野市と同程度の人口規模の自治体を参考にすべき。
- ・大都市では関心領域の規模が異なり、実状が参考になりにくい。

(委員)

- ・視察先選定では都市の成り立ちも重要。(農村地域、城下町など)
- ・前向きな姿勢で動く市民活動と制度的な硬い仕組みで動く行政を中間でつなぐ役割がサポートセンター。民間の活動を行政につなぐ仕組みをうまく作っている事例を学ぶのが良い。
- ・燕市は若者や移住者の参加が多いようであるため、視察してみたい。

(委員)

- ・岐阜県高山市を過去に視察。人口規模が近い。高校生も参加する市民活動の場があることに感銘を受けた。候補として提案したい。

(委員)

- ・新センターは本庁舎と離れた場所での運営となる。同様の運営形態で行っている参考事例があ

れば見たい。

- ・若者参画の取り組みは興味深いですが、新センターは学生にとってアクセスが悪いのが課題。

(委員)

- ・将来的な中間団体の役割まで含めた仕組みも重要だが、今回はセンターの運営や事業展開を学ぶ視察に絞るのがよい。具体的な選定は事務局に任せる。

(委員)

- ・新センターをどのように育てていくか学べる事例を見たい。遠方よりも移動時間が短い場所で複数視察できると良い。候補選定は事務局で検討してほしい。

(委員)

- ・若者参画の事例に興味がある。また、新センターの運営方法を学ぶ視察が重要。

(委員)

- ・若者が継続的に活動する団体を育てる仕組みが重要。
- ・SNSを活用した情報発信、参加促進の仕組みも重要な視点。
- ・視察先では、SNSやデジタル発信を活用した事例も参考にしてほしい。

② 協働推進計画の進捗状況（基本方針2・3）について

(会長)

- ・今回は基本方針2と3について、2月末現在の取組状況の説明を事務局から行い、委員から意見をいただきたい。基本施策ごとに区切って協議する。

(事務局) 基本方針2、基本施策1の課題等について説明。(以下、説明要旨)

- ・市民活動団体が情報発信の場としてセンターを活用する仕掛けとして、新たに団体ごとの情報ファイルを設置する。
- ・来館者が団体の活動を知る機会をつくるとともに、団体がセンターを訪れるきっかけ、そしてコーディネーターとの情報交換の機会をつくることをねらう。

(委員)

- ・団体ファイルだけでなく、チラシラックにも設置できるのか。ファイル形式だけでは見てもらえない。

(事務局)

- ・チラシラックにも設置可能。

(委員)

- ・市民活動団体のチラシ設置が施設ごとに異なる。市として市民活動団体の広報手段を確保する仕組みを検討してほしい。

(事務局)

- ・施設ごとに管理ルールがあると思われる。現状を把握したい。

(会長)

- ・次に、基本施策2について事務局に説明をお願いする。

(事務局) 基本方針2、基本施策2の課題等について説明。(以下、説明要旨)

- ・ワカモノVoiceは今回の参加者をつなげ、広げていきたい。
- ・シニア大学やあづみの活躍カレッジの卒業生が地域参画につながらない。

(委員)

- ・どちらも参加者の8割がリピーター。学習が目的となり、地域活動へつながらない実態がある。センターが活動の受け皿になれば参加の広がりにつながる可能性がある。

(委員)

- ・就職説明会のように、各団体が卒業生の集う場に出向き、勧誘を行うのが効果的ではないか。

(委員)

- ・高齢者は学びへの意欲が高い世代。学びだけでなく、体験の場として市民活動を紹介することが重要。学びと体験がつながる場とがセンターであるという情報発信が重要なポイント。

(委員)

- ・シニア大学修了後に活動の受け皿がない。学んだ知識や資格を活かす場をつくる必要がある。

(会長)

- ・次に、基本施策3について事務局に説明をお願いする。

(事務局) 基本方針2、基本施策3の課題等について説明。(以下、説明要旨)

- ・区のデジタル化支援について、区の実態はデジタルを導入しても登録率が低く、アナログとの併用で負担増につながる可能性があり、有効な施策が難しい。
- ・区加入支援では、移住者に関心の高い加入金や区費等の費用負担について、区の事情等で情報公開が進まない現状がある。

(委員)

- ・区の相談会は誰がどんな相談をできるのか内容を知りたい。
- ・区のデジタル化は高齢化の地域では難しい。

(事務局)

- ・区の相談会は、自治会のトラブルなどの相談窓口。本年度の実績は0件だが、随時相談は対応しており、年間130件ほどある。

(委員)

- ・子ども会育成会の皆さんはデジタルで情報共有している。回覧板もLINEで良いという声もある。隣の顔が見えなくなるのは良くないが、ある程度のデジタル化は必要。

(委員)

- ・区のデジタル化は推進すべき。若い世代が自治会役員を引き受ける可能性が高まる。
- ・自治会は運営に曖昧さがあるが、デジタル化で記録が整理され、透明性向上の効果もある。

(委員)

- ・区の行事日程の急な変更が生じた際、LINEと回覧板で情報差が生じた。せめてLINEくらいは活用できる環境づくりは必要だと感じている。

(委員)

- ・区の課題解決に、社協の生活支援コーディネーターが入っていこうとしても、区側から忙しくて対応できないと受け入れてもらえない現状がある。区の現状を知りたい。

(委員)

- ・コロナ以降、地域サークル活動が大きく減少した。公民館活動の参加者も減少している。
- ・生活支援コーディネーターの活動に対する認知が低いということもある。区の活動と一緒に参加していただきながらというのが良い。

(委員)

- ・区でできないことは民間事業者と連携する仕組みが有効。福祉事業者でも交流の場づくり等行っている。そこにコーディネーターの役割がある。自分たちだけでやろうとするから大変。

(会長)

- ・次に、基本方針3の基本施策1、2について事務局に説明をお願いする。

(事務局) 基本方針3、基本施策1及び2の課題等について説明。(以下、説明要旨)

- ・若者の交流の場を増やしたい。
- ・区長が孤立しており、区長同士の情報交換の場を求める声が増加している。

(委員)

- ・新しいセンターが交流の拠点になることを期待している。コーディネーターは人と情報をつなぐ役割がある。委員には、様々な仕掛けづくりのアイデアなど関わって欲しい。
- ・今後の展望として、中間管理団体をどうつくっていくか、ということも課題。

(会長)

- ・他に無ければ、以上で協議事項は終了とする。

(5) その他

(事務局)

- ・移設後の市民活動サポートセンターの職員体制は、正規職員2名を配置する方針である。
- ・視察研修の協議の中で人口規模等について意見があった。人口規模も重要な視点だが、安曇野市と同規模では取組内容に大差がないと感じており、規模によらず、取組内容に注目して視察先を検討したいと考えている。

(市民生活部長)

- ・委員会の議論が非常に活発であった。センターは堀金に移設するが、団体の皆さんに使ってほしい。
- ・駅周辺など高校生等のアクセス問題に配慮した場所でのイベントの開催も検討していきたい。

(委員)

- ・市全体の課題として、地域づくりは市民活動、社協、公民館、自治会などを網羅して横断的、総合的につなぐ必要がある。役員などが活動しやすい環境づくりが重要である。

(6) 閉会